







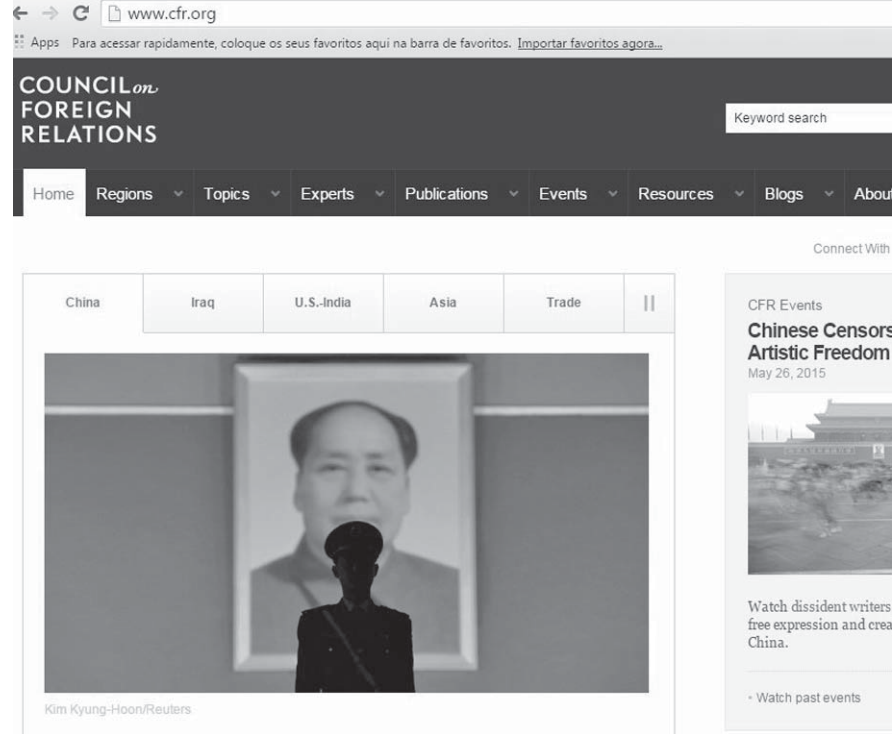


メールマガジン ロシア政治経済ジャーナル 5月22、27日版

米外交問題評議会が打倒中国

作戦変更で日本に擦り寄る?

北野 幸伯



対中関係見直しを論じる「外交問題評議会」(CFR)のサイト

つと前から、「AIB事件」は「歴史的大事件」と書いてきました。なぜって、イギリス、ドイツ、フランス、イタリア、オーストラリア、イスラエル、韓国などなどが、アメリカの要求を無視し、中国主導のアジアインフラ投資銀行(AIB)に入ってしまった。

と主張しはじめました。アメリカでもっとも影響力のあるシンクタンクとは、「外交問題評議会」(CFR)。

「中国はアジア地域で米国の力を試そうとしてい。米国は、そうした抵抗勢力と戦わなくてはならない。そして彼らを打ち負かすための戦略を練り上げていくには、打負かす(beat)を口語すれば「やつつ」になる。

世界情勢の裏の裏を讀め!

今更な話だが、この報告書は米国の思い通りに動かない中国に立ち、協調は限界点に近づいたと捉えている。

「打負かす」と「やつつ」は、いままでのアメリカとは違い、中国に打ち、アグレッシブですね。

「この報告書は中国を刺激する内容で、『ああおついで』と呼んでも差し支えない。

同評議会の代表であるリチャード・ハース氏は「中国との協調」というこれまでの路線は、これから、戦格的で過激な競争相手」と対峙する

「中国は、なぜ日本に『すりより』はじめた?」

「戦略」は不変

「すりより」はなぜ日本に

「すりより」はなぜ日本に

「すりより」はなぜ日本に

「すりより」はなぜ日本に



オバマ米大統領とケリー 국무長官

「増刷決定!」アマゾン、「国際政治情勢」部門、「外交・国際関係」部門、「社会一般部門」

「日本は、なぜ日本に『すりより』はじめた?」

「すりより」はなぜ日本に

「すりより」はなぜ日本に

「すりより」はなぜ日本に





